



海を望むお風呂。静岡の一般建築士事務所 恒河舎の設計

Like 0

ポスト

「お風呂が家にある」あたりまえなことのようですが、その歴史は
そう深くはありませぬ。それ以前は、お風呂は銭湯や共同浴場に
「入りに行くもの」でした。

そういえば「お風呂をこちそうになる」と古い言い回しが残ってい
ます。今のように蛇口をひねれば水が出て来るわけでもなく、井戸
や水場から汲んできた水を、薪で火をおこさなければならなかった
時代の名残でしょうね。

今回は、木の家ネットのつくり手メンバーがつくったお風呂場をの
ぞきみながら「お風呂が家にある」以前のことを少しふりかえっ
てみましょう。

日本人にとって お風呂ってなんでしょう？

今の生活におけるお風呂といえは・・・裸になり、一日活動したこと
による汗や汚れを石けんをつけてこすり、シャワーで洗い流してか
ら、お湯を張った浴槽に身を横たえて、あたたまる。そんな空間で
すね。

身体を清潔にして、衛生状態を維持することは、病気の予防に役立
ちます。けれど、とてもお風呂好きの日本人、お風呂に清潔以上
の何か！を求めているように思えます。

機能的にいえは「シャワーだけでいいじゃん？」と言えなくもない
ところ、やっぱり、湯船に浸かってゆったりする時間があるってこ
そ、疲れも取れて、明日への活力を養える！という感覚があるので
はないでしょうか。

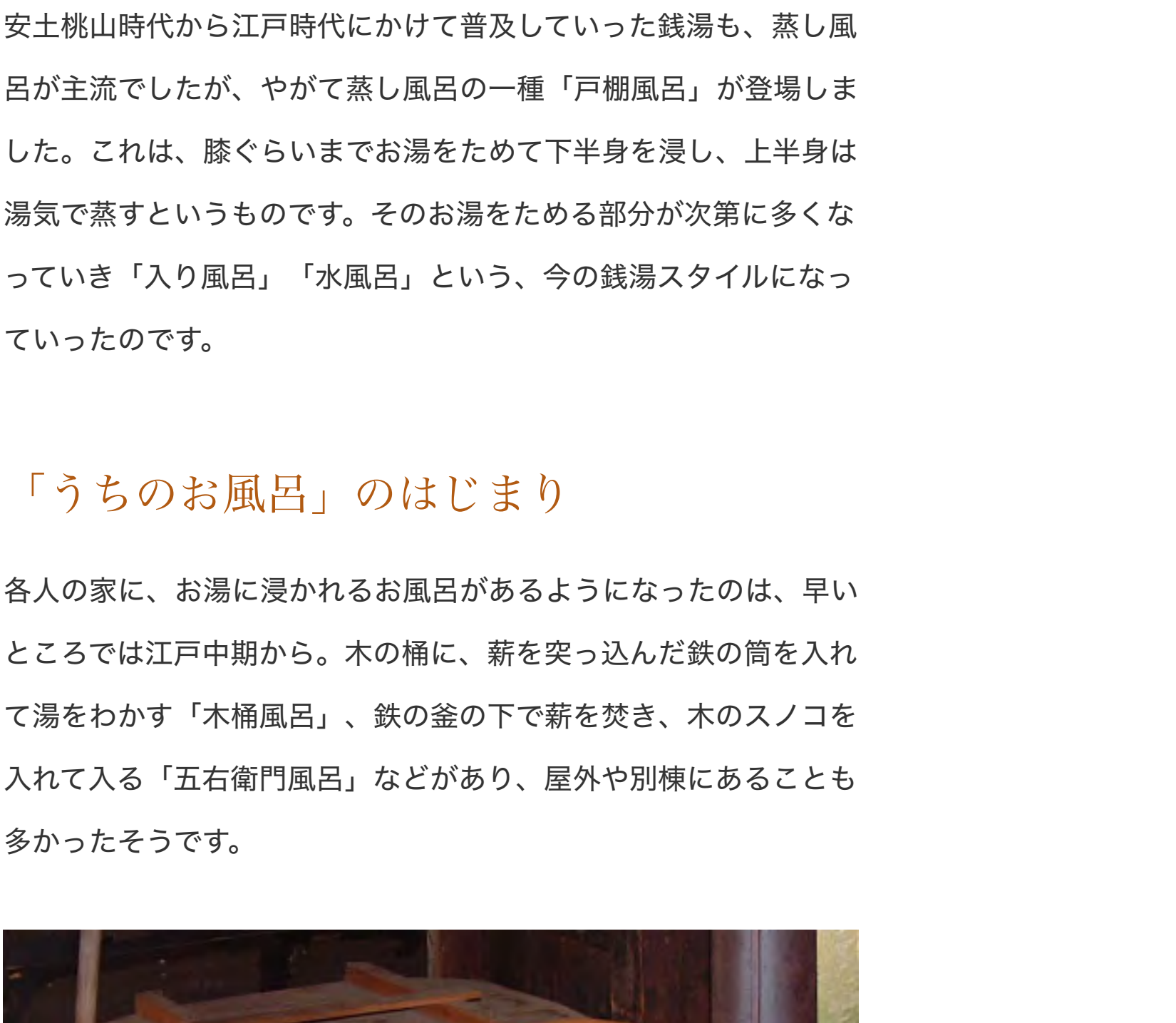


飯道山を臨む眺めのよいお風呂。滋賀の川端建築計画の設計、宮内建築の施工

悪いものを祓い 心身を清める「みそぎ」

そもそも日本人にとって水は、自身を清く保つために大事な役割を
してきようです。「みそぎそ夏のしるしなりけり」という百人一
首の歌がありますが、ここで歌われているのは、夏越の祓（なごし
のはらえ）。毎年六月三十日には河原などの水で上半期の穢れや罪
を祓ったのだそうです。

ほかに水垢離（みずごり）、滝に打たれる業など、物理的な汚れ
だけでなく、罪障を祓う、心身を浄化するという宗教的な感覚も日
本人は持ち合わせてきました。今でも、神社やお寺に行くと、水で
口をすすぎ、手を洗う「手水舎」が必ずありますよね。



緑蔵（はうろう）の風呂桶と、タイル張りの浴室（愛媛県のAA STUDIOの設計の浴室）

まずは蒸し風呂から

最初にできたお風呂は、水を焚いた蒸気で身体を蒸して垢をとる、
今でいうと「サウナ」のような「蒸し風呂」のことを指していたそ
うです。葉草を入れたりすることもありました。お寺やお金持ちの
家で、蒸し風呂に人を招いて開放する「施浴」が行われることもあ
ったようです。

安土桃山時代から江戸時代にかけて普及していた銭湯も、蒸し風
呂が主流でしたが、やがて蒸し風呂の一種「戸棚風呂」が登場しま
した。これは、膝ぐらいまでお湯をためて下半身を浸し、上半身は
湯気で蒸すというものです。そのお湯をためる部分が次第に多くな
っていき「入り風呂」「水風呂」という、今の銭湯スタイルになっ
ていったのです。

「うちのお風呂」のはじまり

各人の家に、お湯に浸かれるお風呂があるようになったのは、早い
ところでは江戸中期から。木の桶に、薪を突っ込んだ鉄の筒を入れ
て湯をわかす「木桶風呂」、鉄の釜の下で薪を焚き、木のスノコを
入れて入る「五右衛門風呂」などがあり、屋外や別棟にあることも
多かったそうです。



木桶風呂：上の写真のものは二重構造の釜に浴槽内の水を対流循環させる。現在の追い焚き型の風呂沸かし器と同じ構造になっている比較的新しいタイプのもので、原型は浴槽内に沈めた金属筒に火のついた薪や炭を入れて湯を加熱するものであった。（wikipediaより）

銭湯に行くのとは別に、夏場はそれぞれの家の庭先でよく「行水」
をしていました。たらいに水を張って、しぼった手ぬぐいで身体を
拭く場面が、浮世絵にもよく描かれています。

洗い場で手桶やシャワーで身体を洗ってきれいにしてから、お湯を
張った浴槽に身を横たえるという現在のお風呂の入り方は、それ以
前の「みそぎ・行水スタイル」と「蒸し風呂→入り風呂スタイル」
とが合体したものだといえそうです。



橋口五葉 ゆあみ 1915年（wikipediaより）

各家庭に普及したのは たかだか50～60年前のこと

ただし、火事の多かった江戸では、庶民は風呂をもつことは禁止さ
れていました。家風呂を持てたのは、武家屋敷や一部の豪農に限ら
れていたようですし、それも「毎日入る」ものではありませんでした。

一般家庭にお風呂が普及したのは、高度経済成長期以降。たかだか
50～60年前のこと。古民家を住み継いでいる事例で、お風呂
場だけ基礎コンクリートを打ってあったりして「あとからお風呂を
増築したんだな」と分かることがあります。

次号予告： 水のリスクに どう対処するのか！

木の家の長い歴史より、うんと歴史の浅い「お風呂とのつきあ
い」。今でこそお風呂を焚く「火」の部分はボイラーやガス、電気
などの「閉じた熱源」のおかげでリスクは低くなりました。しか
し、木は水がかかってそのままになっていると、いたんでいきま
す。家の中に大量の「水」を使うことは、木部が腐蝕する危険性を
もはらんでいるのです。



木の風呂設計。お湯につかった時の心地よさは抜群。神奈川のきらくなてもの
の設計

「家のいたみは水回りから」と言われます。特に台所やトイレと比
べると、お湯を使うお風呂場では、水がかかるだけではなく、風
呂から出るあたたかい湯気が腐朽菌にとって繁殖しやすい環境を作
ったりもします。

つくり手からすると「お風呂をつくることは水リスクとの戦い」で
すし、住まい手としても「水リスクを回避する使い方」を知り、
日々実践することで家を長持ちさせることができるのです。

次号では、木の家ネットのつくり手メンバーから聞いた話をもと
に、そんな話題をお届けします！

Like 0

ポスト

タイルによる世界でただ一つのお風呂。千葉の村上建築工房による

関連する記事はこちら

第14期 木の家ネット総会 岐阜・加子母大会 伝統構法をユネスコ無形文化遺産に！ 無くなっている！刻み用電動工具：込み栓角ノミを復活させるためのアクション 新代表 大江忍インタビュー これからの「職人がつくる木の家ネット」 第13期木の家ネット総会 奈良大会

北海道・東北	関東（東京以外）	甲信越・北陸	東海	関西	中国・四国	九州
北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県	栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 神奈川県 奈良（東京） 東京都	新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県	鳥取県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県	福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県